

## 交通事故のないまちへ

緑 C1250533 及川祐珠

### A) 他のチームの発表を聞いて

自分たちのチームとは違う視点から解決策を提案していて参考になったグループは、オムライス班だ。

このグループは事故ゼロのまちにするためにどうすればいいかをテーマにとりまわっていた。高齢者の事故や運転中の不注意を減らしたり、道路環境をよくしたりするための解決策として、「レインボーロード」を挙げていた。これは、交通事故の主な原因となる注意不足や居眠り運転防止のためにカーブや交差点、横断歩道などの特に注意が必要な場所を中心に光らせる仕組みや、視覚情報だけでは気づきにくい場所や視力に不安がある人に対して、音で注意を促すというものだ。

光や音を使うことによって運転手の安全意識が高まって交通事故防止につながるため、とても良いアイデアだと感じた。特に辺りが暗くなる夜道では、音による注意喚起や警告は効果的なものである。外部からの光や音の刺激は、居眠り運転防止以外にも危険を運転手だけでなく同乗者にも知らせることができる。そうすることで安全への意識が高まり、交通事故を減らしていけると考えられる。

一方で、近隣住民への迷惑や刺激への慣れ、コストやメンテナンスの面で課題が挙げられる。しかし、「レインボーロード」を設置することによるマイナスの面よりも長期的に見てプラスの面が大きいと考える。

### B) 地方都市における交通の問題を総合的に解決するために

地方都市における交通の問題を総合的に解決するためには、高齢者による交通事故を減らすことと、免許返納後も安心して生活できる環境を整えることの両立が重要である。

現在、日本では高齢化が進み、それに伴って高齢ドライバーによる交通事故の増加が社会問題となっている。しかし、地方都市において高齢者が免許を返納することは簡単ではなく、その背景にはさまざまな生活面・心理面・社会面での課題が存在している。

自分たちのグループでは、高齢者が免許返納をためらう理由について「免許を返納すると移動手段がなくなってしまう」「家族に送迎を頼むことで迷惑をかけたくない」「長年の運転経験から、まだ自分は大丈夫だという自信がある」「自由に外出できなくなり、娯楽や人とのつながりが減ってしまう」といった意見が挙げられた。特に公共交通機関が十分に発達していない地方都市では、車は生活に欠かせない存在であり、免許返納は生活に大きな影響を与える可能性がある。そのため、高齢者が免許返納に消極的になってしまうと考えられる。

高齢ドライバーによる交通事故は増加傾向にあり、その原因としてハンドル操作の誤り、ブレーキとアクセルの踏み間違い、安全確認の不十分さ、判断力や集中力の低下などが挙げられている。これらは加齢に伴って誰にでも起こりうるものであり、「自分は

大丈夫」という意識だけでは事故を防ぐことは難しい。そのため、事故を未然に防ぐための対策を社会全体で考えていく必要がある。

こうした中で、他のグループの発表の中で特に参考になったのが、オムライス班が提案していた「レインボーロード」である。「レインボーロード」とは、カーブや交差点、横断歩道など特に注意が必要な場所を中心に光や音で注意を促す仕組みであり、不注意や居眠り運転の防止を目的としている。この取り組みは、視覚だけでなく聴覚にも訴えかけるため、視力に不安のある高齢者にも効果が期待できる。また、夜間や見通しの悪い場所でも注意喚起ができる点が大きな利点である。

さらに、「レインボーロード」はユニバーサルデザインが取り入れられており、高齢者だけでなくすべての世代の運転者や歩行者に対して安全意識を高める効果がある。車道と歩道の区別が分かりやすくなることで、歩道への侵入や逆走といった危険な行動を防ぐことにもつながると考えられる。このように、道路環境を整備することで、高齢者が運転を続ける場合でも事故のリスクを下げるのが可能になる。

また、免許返納に関しては、たんたん班の意見も参考になった。たんたん班では、免許返納の問題を生活面の課題だけでなく、心理的課題や社会的課題として捉えていた。

特に「免許返納は“老い”を認める行為である」という意見は、自分たちのグループにはなかった視点であり、高齢者が免許返納に抵抗を感じる大きな要因であると感じた。

他にも、「公共交通機関の運行範囲や本数が限られており、自分のペースで移動できない」「他人に頼ることへの抵抗感」「支援制度が分かりにくい」といった課題が挙げられていた。

これらの意見を踏まえると、地方都市において高齢者が免許返納をしたがらない最大の理由は、公共交通機関が十分に発達していないことであると考えられる。免許返納後の移動手段が確保されていなければ、高齢者は生活に大きな不安を抱えることになる。

そのため、バスやデマンド交通、地域交通サービスなどを充実させ、高齢者が安心して外出できる環境を整えることが必要である。

しかし、公共交通機関の需要が高まっている一方で、運転手不足などの課題があるのが現状だ。そのため、行政だけでなく地域全体で支え合う仕組みづくりや、支援制度の分かりやすさが求められる。また、免許返納を「危険を避けるための前向きな選択」として捉えられるような社会の意識づくりも重要である。

以上のことから、地方都市における交通の問題を解決するためには、事故を防ぐための道路環境の整備と、高齢者が免許返納後も安心して生活できる交通環境の整備を同時に進めていくことが必要であると考えられる。高齢者が安全に、そして自分らしく暮らし続けられる社会を実現することが、地方都市全体の交通問題解決につながるだろうと考える。